

第6学年国語科学習指導案

児童 6年2組 男14名 女20名 計34名
指導者 佐藤 啓

相手の考えを尊重して聞き合いながら、作品のよさを味わう学習活動の工夫

1 単元名 作品の世界を深く味わおう ～宮沢賢治の作品の推薦文を書こう～
(学習材名「やまなし」「イーハトーブの夢」光村6年下 他の宮沢賢治作品)

2 単元について

(1)児童の実態

児童はこれまでに、「カレーライス」で、登場人物の心情の移り変わりを人物の行動に着目したり、視点を変えてリライトしたりしながら、自分の経験と比べて共感的に読む学習を行った。また「森へ」では、描写のすばらしさを味わいながら、自然との共生について考えを深めたり、読書の領域を広げたりしてきた。

読むことの学習において、直接的に描写されている登場人物の心情を読みとることはできたが、暗示的に表現されたものから読みとることは十分ではなかった。また、対話で互いの考えを聞き合う学習を行ってきたが、具体的な相手の考えをつかみきれずに対話を終えている児童も少なくない。

これらのことから、象徴性や暗示性の高い表現や内容をもつ作品のよさについて、互いの考えを聞き合い、自分の考えを広げたり深めたりすることが大切であると考ええる。

(2)主たる指導事項と学習材

本単元の主たる指導事項は、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」である。本単元では、「優れた叙述について自分の考えをまとめ、それを交流することを通して、自分の考えを広げたり深めたりすること」が指導の中心である。

このような力を育てるために、学習材として「やまなし」をはじめとする宮沢賢治の作品、「イーハトーブの夢」を用いる。「やまなし」は、五月と十二月の二つの場면을対比しながら、蟹の視点で展開される物語であり、擬声語・擬態語、色彩表現、造語や比喩などが多く使われている作品である。また、賢治は作品の中で、恐怖と安らぎが融合した生と死の世界を表現している。そして、「やまなし」以外の作品と読み併せることにより、賢治が理想とし追い求めた、自然と人間が互いに心を通い合わせ、人間が人間らしく生きていく世界をより深く読むことができると考える。

この学習材を通して、児童は、作品の構成や表現の特色、作者の思いから、作品のよさを感じることができると考える。そのことが、作品の世界を深く味わうことにつながるであろう。

(3)指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、宮沢賢治作品のよさを推薦文に表し、互いに発表し合いながら、賢治作品の世界を深く味わうということを児童が見通せるようにする。そのために、資料「イーハトーブの夢」を読んだり、担任が行うブックトークを聞いたりして宮沢賢治作品に関心をもたせるようにする。また、推薦文という読書紹介の仕方を知り、作品のよさを読み味わって交流することを確認する。

ふかめる段階では、全員で「やまなし」を読み進め、学んだことが推薦文の構成要素になるように指導していく。そのために次の視点で読んでいくようにする。

- ・「やまなし」の表現効果。
- ・「五月」と「十二月」を対比的に描いていること。
- ・「やまなし」で賢治が伝えたかった思い。

これらの視点で読んだことをもとに推薦文を書き、交流し合い、作品のよさについての自分の考えを広げたり深めたりしていく。

まとめる段階では、自分が選んだ宮沢賢治の作品の推薦文を書いて、友達と交流し、宮沢賢治の作品の世界を深く味わえるようにする。

3 単元目標

(1)国語への関心・意欲・態度

- ・宮沢賢治の作品やその生き方に関心を持ち、賢治の作品を進んで読もうとしている。
- ・相手の考えを尊重し、作品のよさについて聞き合おうとしている。

(2)読むこと

- ・優れた叙述を味わいながら情景を想像して読むとともに、作品に込められた作者の思いを考えることができる。
- ・作品を読んで考えたことを発表し合い、作品のよさに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(3)伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・比喩表現、擬声語・擬態語、色彩表現などの工夫に気付くことができる。

4 単元の評価規準

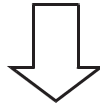
ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①宮沢賢治の作品に興味を持ち、進んで読もうとしている。 ②相手の考えたことを尊重し、作品のよさを分かり合えるまで聞き合おうとしている。	①叙述をもとに情景を想像して読んだり、作者と作品に込められた思いについて考えたりして、作品のよさを読み味わっている。 ②作品のよさに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	①比喩表現、擬声語・擬態語、色彩表現などの工夫に気付いている。

5 学習指導計画(11時間)

[関連する前の単元]

「森へ」

- 描写のすばらしさ、自然への共感を感じながら、読書の領域を広げる。



[関連する対話の指導]

- 相違点や共通点を聞き分ける。
- 考えと根拠を比べながら聞き、納得するまで問い返す。

段階	学習課題 (内容)	学習活動と時間	評価規準 (方法)
みとおす	○宮沢賢治の作品について知ろう。 ○これまでの学習をふり返り、学習計画を立てよう。 ○推薦文を書くための構成要素を知ろう。	・資料「イーハトーブの夢」やブックトークから作品に興味をもつ。(1) ・これまでの読書紹介活動をふり返り、宮沢賢治の作品を推薦する学習課題を設定し、学習計画を立てる。(1) ・推薦文の様式や構成要素について、他の文種と比較しながら理解する。(1)	アー①宮沢賢治の作品に興味を持ち、感想を書いたり発表したりしている。(ノート, 発言)
ふかめる	○「やまなし」の文章表現から作品のよさについてまとめよう。 ○「やまなし」の文章構成から作品のよさについてまとめよう。 ○賢治が「やまなし」にこめた思いについてまとめよう。 ○「やまなし」の推薦文をまとめよう。 ○「やまなし」のよさについて考えたことを交流しよう。	・「五月」と「十二月」の情景描写をとらえ、表現効果について考えながら読む。(1) ・「五月」と「十二月」の違いを叙述をもとに考え、対比的に描かれていることについて読む。(1) ・「かわせみ」と「やまなし」を比べ、題名「やまなし」にこめた作者の思いをまとめる。(1) ・表現、構成、作者の思いなどから、推薦文を書く。(1) ・互いの推薦文を聞き合い、やまなしのよさを交流する。(1・・本時)	ウー①比喩表現、擬声語・擬態語、色彩表現などの叙述の工夫に気付いている。(ノート) イー①「五月」と「十二月」の情景を対比し、想像しながら読んでいる。(ノート, 発言) イー①作品に込められた作者の思いを考えている。(ノート, 発言) アー②相手の考えのよさを認め合いながら聞き合おうとしている。 イー②作品のよさに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(シート, 発言)
まとめる	○自分が選んだ賢治作品の推薦文の構成要素を決め、推薦文を書きまとめよう。 ○同じ本を読んだ人と作品のよさを交流しよう。 ○学級の友達に推薦文を紹介し、賢治作品のよさについて交流しよう。	・選んだ賢治作品を推薦するために必要な要素を決定して書く。(1) ・同じ作品を選んだ人と作品のよさについて交流し合う。(1) ・推薦文を読み合い、感想を交流し、学習の成果を確かめる。(1)	イー②作品のよさに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(シート, 発言) アー①宮沢賢治の作品に興味を持ち、作品のよさを発表している。(シート, 発言)



〈生かす単元〉「物語を読んで、考えを深めよう」(「海の命」)

- ・人物同士の関係をとらえ、人物の生き方と作品の主題について、自分の考えをまとめる。

6 本時の指導

(1)ねらい

- ・相手の考えを尊重し、作品のよさについて聞き合おうとしている。 [対話の情意的要素]
- ・「やまなし」の推薦文を聞き合うことを通して、作品のよさについての自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [「読むこと」の能力]

(2)展開

段階	学習活動	時間	◇学習内容	教師の関わり方 ☆評価(方法)
みとおす	1 本時の学習課題を確認する。 「やまなし」のよさについて考えたことを交流しよう。	2	・交流する目的をはっきりさせ、学習の進め方を確認する。	・それぞれが推薦したい「やまなし」の作品のよさを伝え、推薦したい理由について聞き合うことが目標であることをおさえる。
ふかめる	2 「やまなし」の作品のよさについて、互いの考えを聞き合う (1) 推薦文を読み、「やまなし」の作品のよさについて考えを聞き合う。(1回目の対話) (2) 推薦文を読み、「やまなし」の作品のよさについて考えを聞き合う。(2回目の対話)	23	◇相手が推薦したいことの内容を聞き合い、作品のよさについての自分の考えを深めること。 ・表現から 造語のおもしろさ、擬態語から想像したことなど ・構成から 「五月」と「十二月」を比べてわかったことから ・作者の思いから 「やまなし」にこめた作者の思いから ◇相手が推薦したいことの内容を聞き合い、作品のよさについての自分の考えを広げること。 対話で聞き合わせたいこと ----- ・なぜ、・・・を推薦したいと思ったのですか。 ・「五月」と「十二月」を比べると、どんなことが分かりましたか。詳しく教えてください。 ・「自然の厳しさとやさしさ」と言っていましたが、何が厳しさで何がやさしさだと思いますか。具体的に教えてください。 ・私も～さんと同じ考えですが、・・・についてはどう思いますか。 -----	・2回の対話を行う。1回目は、推薦する内容が同じ児童同士でペアを組ませ、自分の考えを深めさせたい。2回目は内容が違う児童同士でペアを組ませ、作品のよさについての自分の考えを広げさせたい。 ☆相手の考えのよさを認め合いながら聞き合おうとしているか。(観察・発言) ☆作品のよさに対する自分の考えを広げたり深めたりしているか。(観察・発言・学習シート) 【努力を要する児童への手立て】 ・掲示で、作品のよさの構成要素を確かめることにより、相手の考えの視点に気付かせる。 ・対話したことを生かして、作品のよさに対する自分の考えをまとめさせる。
	3 対話をして気付いたことを書く。	12	◇交流を通して、広がったり深まったりした作品のよさを書きまとめること。	
まとめる	4 学習のまとめをする。	8	・対話をしてよかったことについて振り返る。	